

企画展  
はじめての古美術鑑賞  
人をえがく

Museum Collection Exhibition  
Introduction to Traditional Art:  
People in Painting



ゆうじよ

【遊女】風俗図  
近世初期、名所絵などの画題は、風景より風俗描写を強調するようになり変化し、遊女などを描いた風俗画が描かれるようになった。



さいじん  
【祭神】藤原鎌足像



かせん  
【歌仙】和泉式部像



いこくじん  
【異国人】銅馬図

古美術の見どころを分かりやすく解説する展覧会、「はじめての古美術鑑賞」シリーズも今回で5回目となりました。今年は、絵画の主要なテーマの一つである人物画をとりあげます。

人物画は今でこそ当たり前前に描かれていますが、実は古代日本では、自分の姿が描かれるのは忌むべきこととされていました。しかしそのような時代でも、信仰対象となった人びとだけは、例外的に描かれました。平安時代末期頃から、この流れに変化が起ころははじめ、鎌倉時代に入ると、公家や武家といった、在世中の高貴な人々を描くことが一般的になります。さらに時代が降ると描かれる対象はさらなる広がりを見せ、市井に生きる庶民の姿なども描かれるようになっていきます。そして対象の広がりにもない、表現も多様になりました。

この展覧会では、「人をえがく」作品の展開を概観しながら、主な人物画のジャンルをわかりやすく紹介します。この展覧会が古美術に接する機会となり、その鑑賞への第一歩となれば幸いです。

2021年9月11日(土) ~ 10月17日(日) 日時指定予約制  
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館  
NEZU MUSEUM





◆ 聖なる人びと



重要文化財  
ほっそう まんだら  
法相曼荼羅  
1 幅 絹本着色  
日本・鎌倉時代 13～14 世紀  
根津美術館蔵

上部に釈迦如来を表し、奈良・興福寺と薬師寺を本山とする法相宗の教主である弥勒とともに、法相の祖師たち11人を描いた曼荼羅。インドの無着、世親、中国の玄奘三蔵、慈恩大師、日本の玄昉らが左右に配され、仏法の継承を視覚的に表している。



重要文化財  
こうぼうだいしぞう  
弘法大師像  
1 幅 絹本着色  
日本・鎌倉時代 13～14 世紀  
大師会蔵

真言宗の開祖である空海の画像は、没する直前に弟子により描かれたとされるが、古例は意外に少ない。本作は鎌倉時代に遡る大師像として貴重な作品である。

◆ 高貴な人びと



ふじわらのみつよしぞう  
伝藤原光能像 模本  
れいせい ためたか  
冷泉為恭筆  
1 幅 紙本着色  
日本・江戸時代 19 世紀  
根津美術館蔵 植村和堂氏寄贈

神護寺に伝わる「伝源頼朝像」など三幅の肖像画は、日本肖像画史上の最高傑作とされる。本作は、そのうち「伝藤原光能像」の冷泉為恭による模本だが、原本から感じられる像主の個性をも写し取っている。

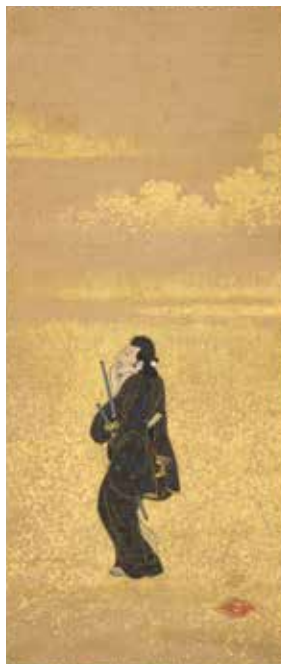
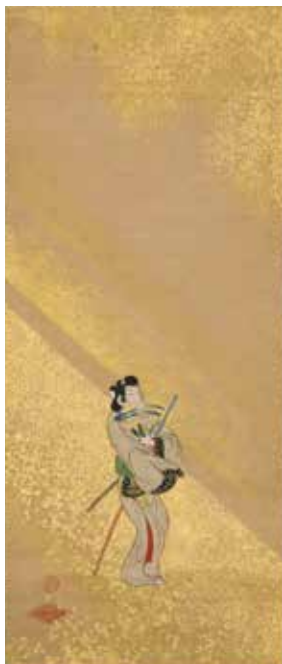
◆ 異国の人びと



重要美術品  
しばす けんこうしやうけい  
飼馬図 賢江祥啓筆  
2 幅 紙本着色  
日本・室町時代 15 世紀  
根津美術館蔵 小林中氏寄贈

馬とともにその世話をする男性を繊細な線と淡彩で表した対幅。中国では異民族の姿がよく描かれた。本作は祥啓が中国画から学んだ成果が最もよく発揮された作品で、代表作の一つである。

◆ 市井の人びと



重要美術品 ふうぞくず 風俗図  
3幅 絹本着色  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵

中幅に禿かむろを従えた遊女を描き、向かって右にかぶき者、左に若衆を描く。金泥と濃彩を用いた衣装や、金切箔や砂子を多用した背景装飾は、桃山時代の遺風を継いでいる。生き生きとしたその表情は、近世初期の風俗画の中でも秀逸な出来栄を示す。

◆ 近代の人物画



りんざいいつかつ ほしもとがぼう  
臨濟一喝 橋本雅邦筆  
1幅 絹本着色  
日本・明治時代  
明治30年(1897)  
個人蔵

臨濟宗の開祖・臨濟義玄りんざいぎげんが問答の際に一喝する場面を描いた、橋本雅邦の傑作。狩野派の筆法を基本としながらも、繊細な陰影による立体表現は西洋画から学んでいる。

てまりず  
手鞠図  
どうもといんしやう  
堂本印象筆  
1幅 絹本着色  
日本・昭和時代  
昭和12年(1937)頃  
根津美術館蔵



華麗な振袖姿で手鞠を手にする少女と、じゃれつく子犬を描いた愛らしい作品。円山四条派の伝統を受け継ぎながらも、その色彩ははるかに軽快で近代的である。

同時開催展

展示室5

陶片から学ぶ—朝鮮陶磁編

土質や制作技法など様々なことを教えてくれる陶磁器の破片。陶磁器研究の醍醐味とも言える陶片の世界にご案内するシリーズ、第二弾は朝鮮陶磁です。



ふんせいとうへん  
粉青陶片  
朝鮮・朝鮮時代 15～16世紀  
根津美術館蔵

韓国・忠清南道の鷄龍山付近の窯跡で、研究者・浅川伯教あさかわのりたかが昭和初期に採集した陶片。横河民輔よこがわたみすけ、東洋陶磁研究所を経て、当館の所蔵となった。

草木が枯れゆく秋、茶の湯では一年間楽しんだ前年収穫の茶や、夏の道具は使い納めです。その名残を惜しみ、寂びた茶道具約20件を取り合わせます。



はせ ぎれい ふじわらのりなが  
長谷切 藤原教長筆  
1幅 紙本墨書  
日本・平安時代 12世紀  
根津美術館蔵 植村和堂氏寄贈

『和漢朗詠集』を藤原教長が書写したものの。この断簡は巻上の「秋・落葉」の一部分で、中央の三行は平安時代の官吏・高岳相如たかおかのすけゆきが詠んだ漢詩。

展示室1・2 はじめての古美術鑑賞—人をえがく—

展示室6

残茶—秋惜しむ—

## 開催概要

展覧会名	企画展 「はじめての古美術鑑賞 ―人をえがく―」
主 催	根津美術館
開催期間	2021年9月11日 [土]～10月17日 [日]
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日、但し9月20日(月・祝)、10月11日(月)は開館し、9月21日(火)は休館。
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ※( )内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般1400円)を美術館受付で販売いたします。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住 所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website <a href="https://www.nezu-muse.or.jp">https://www.nezu-muse.or.jp</a>

## 広報制作物のメール配信のお知らせ

当館の広報制作物のメール配信を開始しました。従来の郵送から、メール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報課([press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp))へどうぞお知らせください。なお、郵送とメール配信の併用はご容赦ください。

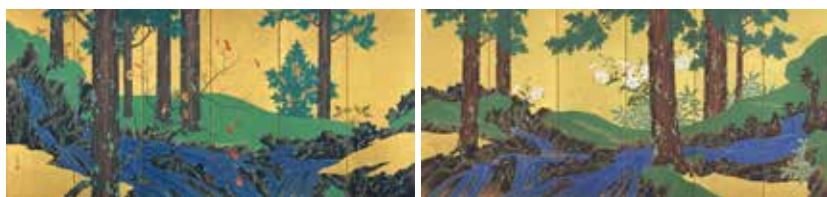
表紙の作品 上：重要美術品 風俗図(部分) 日本・江戸時代 17世紀  
右から：重要美術品 銅馬図(部分) 賢江祥啓筆 日本・室町時代 15世紀 小林中氏寄贈  
在原業平・和泉式部・紫式部像(部分) 伝清原雪信筆 日本・江戸時代 17世紀  
藤原鎌足像(部分) 日本・室町時代 16世紀 (すべて根津美術館蔵)

## 次回展 重要文化財指定記念特別展

## 「鈴木其一・夏秋溪流図屏風」

2021年11月3日(水・祝)～12月19日(日)

2020年、江戸琳派の鬼才・鈴木其一の代表作が、国の重要文化財に指定されました。作品誕生の秘密を探り、「奇想」の革新に迫る展覧会です。



同時開催：

展示室5「筆墨の魅力―禅僧たちの書―」

展示室6「炉開き―祝儀の茶会―」

重要文化財 夏秋溪流図屏風 鈴木其一筆

紙本金地着色 6曲1双 日本・江戸時代 19世紀 根津美術館蔵